

学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果及び改善方策

学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック美容専門学校

委員会開催：平成30年5月29日(火)

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(課題・特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		非常に良い …5	良い …4			適切である …3	課題がある …2	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5		実学・人間・国際教育の「建学の理念」及び、「4つの信頼」として学生・保護者、高等学校、業界、地域の4つの対象者からの信頼獲得を目指しており、周知方法として、学外に向けては学校案内等、学生へは教育指導要領に明記して周知を図っている。		5		●社会のニーズを考慮して毎年見直しを行なっている点が素晴らしい。 ●学校の特色は、実際に授業を見せて頂きましたが、先生が熱心に授業を行なう姿勢、受ける学生が積極的に参加しているのが感じられました。 ●年間目標をフィードバックして中長期目標へつなげている。 ●理念・目的・育成人材像等は素晴らしい取り組みを行なっていると思います。
	1-2 育成人材像は、業界などの人材ニーズに適合しているか	4		関連業界との協同教育(現場実習)を実施し、人材ニーズに合致したカリキュラムを構築している。教育課程編成委員会を年2回開催し、業界からカリキュラムへの提言を受けている。	離職率を減らしていくためには更に業界の人材ニーズを把握してそれを教育に活かす必要がある。	4.6		
	1-3 特色ある教育活動に取り組んでいるか	5		企業と連携した現場実習、学生サロンなどの体験型学習が本校の特長であり、年々強化している。		5		
	1-4 学校の将来構想を抱いているか	4		学校運営の計画については、5年先を見据えた計画(5か年計画)のもと、単年度の事業計画を策定している。	5か年計画の数値目標を立てているが、目標と実績に大きな差があるため、1年1年の目標を確実に達成する体制作りを実施する。	4.6		
2 学校運営	2-5 運営方針は定められているか	5		事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」について明確に文書化し、周知、浸透の機会を常に設けている。 ・文書としての配布 ・勉強会の実施 ・全体研修での周知と理解度確認を実施。		4.8		
	2-6 事業計画は定められているか	5		・中期計画(3～5年程度)を定め周知のための勉強会も設定している。 ・中期計画からブレイクダウンした単年度計画も明確に定められている。 ・事業計画に予算、事業目標等を数値で明示。 ・事業計画の執行体制においては、「組織役割表」設定し明確化している。 ・執行・進捗管理状況は予算においては「毎月」、事業計画においては「半年」を目安に見直しの機会を設けている。		5		
	2-7 設置法人は組織運営を適切に行っているか	5		・理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。 ・理事会、評議員会共に必要な審議と議事録の作成がなされている。 ・寄附行為は、必要に応じて改定の機会が設けられている。		5		
	2-8 学校運営のための組織を整備しているか	5		学校運営に必要な組織体系を整備し、それぞれの部署で役割の明確化もなされている。事業計画にこの役割表は明示され、全教職員に周知している。また、兼職ごとの研修を組んで研鑽している。		5	●学外での活動(サポロコレクション)などは学生が社会に踏み出す前の経験として自信に繋がる大切な実践教育だと思います。	
	2-9 人事・給与に関する制度は整備されているか	5		すべて就業規則に明記されている。また採用計画と人材育成のための研修については、システムとして確立され有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた評価や賞金決定、人事が行われている。		5		
	2-10 意思決定システムは確立されているか	5		・教務においては学校長が主催する進級・卒業判定会議にて意思決定する。 ・財務等の事務処理においては事務局長の決済のもと意思決定がなされている。 ・組織図と職務分掌において規定されている。		5		
2-11 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5		業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化が図られている。学生の出入管理はipadを活用したシステムが導入されている。		5			

3 教育活動	3-12 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	年度後半に当該年度を検証し、教育課程編成委員会のご意見を加味して次年度の新しいカリキュラムに反映させている。	しかしながら、学科・コースごとに検証してくと、日々変化する業界の人材ニーズに応えられているかは課題が残る。例としては、エステやネイルコースでは「資格重視」の教育を行なっているが、それが業界が真に求める事であるかは改善の余地があると考えている。	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ●外部の意見を積極的に取り入れている。 ●社会で通用する人材育成を行なっている。 ●スモールステップでカリキュラムが編成されている。 ●幅広いニーズに応えようと努力している。 ●教務と講師が一体となって取り組んでいる。 ●研修も外部に出るものを増やして、フィードバックすると良いのではないかと。 ●サロンワークの授業を増やしていくと良い。楽しみながら仕事の流れが分かる授業にしていくと良い。 ●試験の不合格者に対するケアがしっかり行なわれている。 ●低学力対策は、新聞や美容関連のニュースをノートに筆記させるなどの対策で日本語力をUPさせられるのではないのでしょうか？劣等感を持たせずに指導することが難しいと思います。
	3-13 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	5	各学科の修業年限と就職で求められる力を勘案しカリキュラムを編成し、継続して働くことのできる力を身に付けることを第一に科目群を編成している。卒業時に全員が国家資格を取得するレベルには到達しつつあるが、100%を達成できていない。		4.8	
	3-14 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科各学期ごとに到達目標を設定 ・教育目標に照らし合わせて設定している ・資格免許の担当教員を選任し入学段階よりフォロー教育プログラムにしている ・資格取得のための対策講座と補習プログラムを確立している 		4.8	
	3-15 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年の教育課程編成する際に学科長がカリキュラムプレゼンを学校責任者に実施している。 ・教員・時間数は法定要件を満たした上で一般科目をバランス良く配分している。 ・目標に沿ってその分野のスペシャリストである講師がシラバスを作成し授業を選定。 ・到達目標の設定に基づき適切に授業連携を選択している ・授業内容に適切にグループワークなどを取り入れて指導方法に変化を持たせている ・MMPプログラムの実践とキャリア教育の視点で科目ごとに配分している ・ポートフォリオを活用し職業実践教育をプログラム化している。 ・年度ごとに見直し改定を行っている。 		5	
	3-16 キャリア教育の観点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の定義である、入学前→在学中→卒業後のキャリア形成からキャリア開発へのフローで教育体系が作られている。 例として入学前も本校では「入学前教育」と定義してオープンキャンパスを通じて受験生の「動労観」「職業観」を育んでいる。 		5	
	3-17 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを年間2回実施し、その都度担当講師にフィードバックを実施している。 ・授業の集大成としての位置づけである、ベルエポックコンテストを業界プロにも審査して頂いている。 		5	
	3-18 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時にコンプライアンス上講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。		5	
	3-19 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・教壇力向上のための教務研修・国家試験対策研修、カウンセリング研修などを実施している。 ・道内の美容学校全体で教職員研修を1泊2日で行ない、互いに切磋琢磨している。 ・学校コンセプトにある「最新」を学ぶために東京での研修も実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任を対象としたスキルアップ研修を実施したが、「振り返り」を徹底できなかった。 ・一授業担当講師も交えた授業改革勉強会、担任との面談を実施していく。 	5	
	3-20 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	評価基準を明確にし、学生が公平・公正に評価を受けられるよう、「教育指導要領」「学生便覧」に明記し、学生・講師・教員共有の基準としている。その基準を基に学生の指導・支援にあたっている。		5	
	3-21 資格取得の指導体制はあるか	5	資格取得のための指導体制はシステム化できており、国家資格である美容師試験に関しては、独自問題集及び模擬試験の作成と活用、低学力者対策など、きめ細かい支援が整っている。万が一不合格になった場合のサポート制度も整備しており、昨年度は前年の不合格者全員を合格に導いた。		5	

4 教育成果	4-22 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	就職目標を設定し、就職活動状況をデータ管理、詳細まで把握できている。業界とは情報共有を通じて、採用状況や選考スケジュールを把握し、さらに就職支援の一環としてセミナー(会社説明会)等を実施している。月2回の数値データにより課題の発見と、対策を講じている。 就職を希望する学生が、内定を得られない状況はなかった。ただ専門学校に入学したにも関わらず、専門職就職を希望しない学生もいて、学校生活の中で全員が専門職就職を希望する意識作りは工夫を要する。また卒業後1年以内の離職率が前年卒業生より悪化しているため、この点も学校生活の中での育成が必須である。	5	
	4-23 資格取得率の向上が図られているか	4	きめ細かい指導体制があり、美容師国家資格の合格率は全国トップレベルの水準にある。また、学園内の姉妹校、国家試験対策センターとも連携し、教員の資質向上に努めている。	4.8	
	4-24 退学率の低減が図られているか	3	専門学校の退学者率の水準が一般に10%~15%と言われている中で、本校の28年度実績は7%で、低減度合は高いレベルにあると考えているがこれを限りなく0に近づけていく事が我々の使命である。	4.2	
	4-25 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	就職先訪問と卒業生からの情報により卒業後の離職状況を把握している。開業やコンテスト入賞などの情報もSNS等を通じて把握している。	4.4	
5 学生支援	5-26 就職に関する体制は整備されているか	5	学科スタッフだけでなく就職専門部署であるキャリアセンターを組織化し、支援体制を構築している。共通ファイルで常に就職活動状況の閲覧が可能、課題発見や対策に役立てている。就職講座の他に個別指導も実施し、適切に対応できている。	4.8	
	5-27 学生相談に関する体制は整備されているか	5	SSC(スチューデントサービスセンター)を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効に機能していると考えている。教職員全員がカウンセラー資格を取得している。	4.8	
	5-28 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	学生サービスセンターという専門部署を設けて学費相談を行なっている。家計の急変時には適宜支援している。公的奨学金を適切に活用し、保護者との連携も取れている。	4.8	
	5-29 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	「スチューデントサービスセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。また、一人暮らしをする学生については、希望者には学生寮が完備されており、寮長兼母が親代わりで生活面もケアしてくれている。学校と連携を取り、学生の変化などには細かい部分まで気を配り対応している。	5	●課題活動・・・今も充分外部に出て行く活動をされていますが、さらに「話題になる」「面白い」事にチャレンジしていくと良いと思います。
	5-30 課外活動に対する支援体制は整備されているか	5	サークル活動では本年より「バス部」が活動した。また、学生プレス活動(オープンキャンパス運営)は毎週活動しており、担当職員を配置し教育を含めた指導体制ができています。	4.8	●子供の育成において職業理解へのバラつきやギャップが少しでも減るよう、家庭と学校が連携していく事が重要だと思います。
	5-31 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	一人暮らし学生のための学生寮も完備されており、生活環境への支援は十分できていると考えている。特に、学生寮には寮長、寮母が常駐しており、急な病気や怪我などの際には保護者代わりとして対応して貰っている。	5	
	5-32 保護者と適切に連携しているか	4	入学前にはオープンキャンパスでの「保護者会」を実施、また在学中も「学内サロン実習」への招待を実施。また、「学校だより」を発行し、行事の報告や中退防止に向けた家庭での支援も呼びかけている。また、学費問題に対する支援体制も、保護者の立場に立った考え方、行動、協力が出来ていると考える。	4.6	
5-33 卒業生への支援体制はあるか	4	同窓会を組織し、年1回の同窓会を開催している。生涯就職支援の体制が整っていて、卒業生への就職相談は常に応じている。	4.6		

●卒業生との連携の項目では、定期的に卒業生が来校できる仕組みを作って情報交換できると良いと思います。例えば●●年の卒業生だけが集まる機会を作るなど。

●課題活動・・・今も充分外部に出て行く活動をされていますが、さらに「話題になる」「面白い」事にチャレンジしていくと良いと思います。

●子供の育成において職業理解へのバラつきやギャップが少しでも減るよう、家庭と学校が連携していく事が重要だと思います。

6 教育環境	6-34 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	カリキュラムの割合からも、実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を整えていることが必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はしっかり整備されていると考えている。また、各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てクリアした環境としての承諾を得ている。	エステ実習室などの機器、図書室内の図書の更新に課題があるので、予算を確保し随時進めていく。	4.4	
	6-35 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5	学外実習の充実こそが、いま最も力を入れている点である。そのために様々な企業と連携すべく職員が日々奮闘している。海外研修に関しては、パリにあるジケイヨーロッパセンターと連携して研修内容の充実・通訳などのサポートを行なっている。		5	●実習に関しては、行かせる事が目的ではなく、実習までの事前教育などが大切になってくると思います。より本人の学びになるような仕組みが必要だと思えます。 ●学校行事に「業界を巻き込んで」参加してもらうなどの工夫をすると面白いのではないかと。 ●海外研修が大変充実しているので、参加者ももっと増えるといいなと思います。(卒業生である私も参加しましたが)研修で感じられる刺激や学びは15年経った今も覚えているほどです。
	6-36 防災に対する体制は整備されているか	5	年1回の避難訓練・AED講習会の実施のほか、学生及び教職員・非常勤講師に対して防災マニュアルの配布及び防災ビデオの視聴による啓蒙を実施している。また、建物は耐震構造の建物であり、ロッカー等の転倒防止の対策も講じている。	校舎の移転から15年ほどを迎えるため、老朽化に日々対応していく必要がある。	4.6	
7 学生の募集と受け入れ	7-37 学生募集活動は、適正に行われているか	5	本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルール及び学則を基に、募集開始時期、募集内容を守っている。また、受験生ならびに保護者目線に立った学校選びのためのサポート(奨学金、特待生、交通費補助制度等)に関しても、充実していると考えている。		4.8	
	7-38 学生募集活動において、教育成果は正しく伝えられているか	5	産学連携・姉妹校連携を軸とした教育を、パンフレット・映像・SNSで効果的に発信できていると考えている。		5	●学生募集においては、他校さんよりも新しい事をやっていると思いますが、もっともっと聞いていく事、挑戦していく事が大事だと思います。
	7-39 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	学則を基準とし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。合否判定は、入学選考日に実施する「入学選考委員会」にて公正に判定されている。		5	
	7-40 学納金は妥当なものとなっているか	5	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開体制を取っており、学納金が公正に使われているかを公表している。		5	

8 財務	8-41 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5か年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もしっかりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。		5	
	8-42 主要な財務数値に関する分析を行っているか	5	キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく、施設設備支出、借入金返済などを考慮した資金収支の予算も作成している。また数字は1ヶ月ごとにチェックしており、適正な予算管理が実行されている。		5	
	8-43 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	5	事業計画は5か年単位で作成しており、教育目標との整合性はもちろん、市場ニーズ、業界ニーズも含めて検討し作成している。とりわけ教育内容充実に向けては最優先事項として取組んでいる。		5	
	8-44 予算計画に基づいた適正な執行管理ができているか	2	主に事務局長が予算立案・管理を行なっているが、今年度は当初に立てた予算に対する執行率が105%であり、振差を生んだ。	予算立案の緻密さ、管理方法に課題を残したため、次年度は徹底していく。	3.8	
	8-45 私立学校法および寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	5	公認会計士による監査と監事による監査を実施し、結果を監査報告として理事会、評議員会に提出している。		5	
	8-46 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	5	財務情報公開規程および情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備しておりHPにて公開している。		5	
9 法令等の遵守	9-47 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは整備されている。定期的に行なわれる厚生労働省等による監査もクリアしている。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。		5	
	9-48 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への研修（研修、制度確立済み）と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。外部機関の「TRUST-a」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。また、TRUST-aより年に一度研修を受けている。		4.8	
	9-49 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	自己点検・自己評価に関しては、開校以来、毎年度末に事業計画に基づいた総括を実施し、収支バランスや、教育力、就職力、広報力について数字結果から点検を実施し、問題発見できたことは、次年度の課題として引継ぎ、その課題を克服する事業計画を作成し、その改善に努めて来た。その積み重ねの結果が、受験生、保護者、高等学校からの信頼として徐々に形になりつつあると考える。		5	
	9-50 自己点検・自己評価結果を公開しているか	5	自己点検・自己評価の情報公開については、学校ホームページに「情報公開」というページを作り、公開している。		5	
	9-51 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	5	職業実践専門課程の認定を受けるべく、昨年度から実施を行った。しかしながら、通って更にその3年前に「第三者評価」を受けた際にも、同様の項目でこれに近いことを整備していたため、学校関係者評価の目的や意義については十分に理解している。		5	
	9-52 学校関係者評価を公開しているか	5	評価の結果をまとめ、HPにも公表している。		5	
9-53 教育情報に関する情報公開を積極的にやっているか	5	HP上でもそうだが、学校案内に分かり易く写真も掲載して教育内容を紹介している。		5		

●学校運営において様々な法令や個人情報保護などに配慮しながら真実に学校運営を行っている事に敬意を表します。

10 社会貢献	10-54 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5	地域清掃や学生サロンを通じて地域への貢献を行ない、業界に対しては各種検定試験の会場貸し、卒業生に対しては就職情報の提供を通じて貢献を行っている。	5	
	10-55 国際交流に取り組んでいるか	5	建学理念の一つに『国際教育』を掲げており、学園を上げて国際交流に取り組んでいる。カリキュラムにも反映させ、留学生の受入れも積極的に実施している。(現在留学生が2名在籍中)	5	●学内外で学生が活躍できる場を作っているのが素晴らしい。 ●生涯学習講座は非常に難しい取り組みですがぜひ拡がることを期待しています。 ●国際交流には十分に取り組んでいると感じます。
	10-56 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	授業を通じて老人保健施設へのメイクボランティアなどの活動を支援している。また学内に盲導犬協会の募金箱、大規模災害発生時には募金箱を設置するなどの支援体制を作っている。	5	

全体を通しての委員からの意見

- 自己評価が的確にかつ真摯になされており前向きに取り組んでいる事が感じられます。これからも次世代の人たちの教育に熱意が注がれるよう期待します。
- 学校の特長が産学協同教育であり、業界と学校が連携して人材育成をしている点が素晴らしい。
- (保護者として)娘をしっかり教育してくれており、感謝しています。おかげで就職も決まりました。
- これまで抱いていた学校への印象が、近年良い方向に変わってきている。今後はもっと「あいさつ」をできる学生を育てて欲しい。それにはまず先生が変わる事から始めるとそれが先生に伝わっていくと思います。
- 運営面では予算管理に課題があるので学校という性質上突発的な予算変動はあるかと思いますが徹底をお願いします。

改善方策

- 学校関係者評価委員会を終えて学校の課題が改めて明確となった。学校の課題として早急に取り組む必要があるのは「人間教育(あいさつ)」と「業界や保護者の巻き込み」である。
- ・人間教育は、職員自らが動き実践していく事でそれが学生に伝わり、学生が変わって行く。そのプロセスを実行していきたいと思います。
- ・業界の巻き込みに関しては、学校行事に業界関係者を招いたり、業界と合同で1つの行事を行なうなどの新しい取り組みを実行していきたい。
- ・保護者の巻き込みに関しては、30年度は4回以上の保護者会を企画し、保護者が授業や行事を見学しながら職員と懇談できる場をつくり、学校と家庭が協力して学生を育成する体制を作っていきます。
- ・予算管理に関しては、30年度は緻密な予算計画と進捗管理を実施できる体制を構築していきます。